



# うさぎ通信

平成 24 年第 1 号



## NPO法人認知症介護家族の会うさぎ・設立記念講演会



昨年 10 月 15 日に開催した講演会は、約 200 名の方々が参加してくださいました。皆さまの認知症介護に対する関心の高さを感じるとともに、地域における会の役割を再認識する機会となりました。この紙面をお借りして、改めてお礼を申し上げます。

理事長 諸岡 明美

### 『第 1 回認知症介護教室』が始まりました！

認知症の介護について地域のみなさまとともに考えたり、学ぶことができるようにと「認知症介護教室」を企画しました。第 1 回は認知症の症状にはどのようなものがあるのか、また最新の治療はどのようなものがあるのか、茨城県立医療大学神経内科・河野豊先生にご講義していただきました。

下記のとおり行いましたが、詳しい内容は 3 ページにあります。

|      |  |   |
|------|--|---|
| 開催日  | 3 月 1 1 日 ( 日 ) 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0 まで |  |
| 開催場所 | あずま生涯学習センター 研修室 1・2                      |   |
| 参加費  | NPO 協力会員 無料                              |   |
|      | 一般参加者 500 円                              | ★事前の申し込みは不要です。  |



《設立記念講演会受付のようす》

ご来場ありがとう

ございました 😊

上野先生は、認知症の人の訪問診療をされている日本でも数少ない先生です。そこに至るまでの経緯から講演では話されました。何よりも認知症の人を生活者として見て、それを大切にしたいという思いが訪問診療につながっているということが分かりました。

一方、山崎先生は、ご自身のお母様を長年、介護した体験をお話しされましたが、認知症の初期のころからメモや写真など記録として残されていました。その膨大な資料は認知症の在宅における介護の大きなヒントになるとともに、介護の専門職にとっても貴重な資料となることでしょう。お二人の先生のお考えや穏やかなお人柄に講演会も暖かい雰囲気で行われることができました。本当にありがとうございました。

★NPO法人認知症介護家族の会うさぎの設立記念講演会では、アンケートを書いていただきました。全部を紹介することはできませんが、いくつか感想やご意見をご紹介します。

〔上野先生〕

- ・認知症の母とコミュニケーションがとれず、いららすることが多かったのですが、「おかしな行動」と見ないが参考になりました。
- ・精神科医の関わりが必要、入院ではなく訪問で可能に早くしてほしい。それには地域での支援が必要。
- ・認知症で入院する方が年々増えている中で、入院しなくてもよいという事を聞き、周囲の支援が整備されていけばいいなと思いました。

〔山崎先生〕

- ・「回想コーナー」「古い電話を使う」など安心安全を作ることが重要だと勉強になりました。
- ・お母さんの介護のいろいろな工夫には本当にすごいと感心し、役に立つことが沢山ありました。
- ・デザインする、ケアするは観察に始まります。デザインの視点で認知症ケアを工夫されてこられたことが素晴らしい。
- ・嫌なことをしないで生活しやすい環境が重要。



約60名の方々がご参加くださいました。講演は、認知症とは何かから始まり、その表れる様々な症状や状況について例を上げながら、詳しく丁寧に説明して下さいました。脳のことや疾患、治療薬については難しい部分もありましたが、河野豊先生の柔らかい語り口に助けられ、分かりやすく聴くことができました。「医療ができることは1割、あとの9割はケアです。」という先生の言葉はとても印象強く残りました。

また、講演後にはたくさんの質問があり、認知症についての関心の高さと切実さを感じました。当日、アンケートにお答えいただいた方々には改めてお礼を申し上げます。

【アンケート回答者 35名】

1. ●患者様のご家族 7名 ●介護スタッフ 20名 ●その他 8名
2. 介護が必要な認知症の人 ●男 3人 ●女 14人 ●年齢 (70代3名、80代17名、90代4名)  
\*以下は最も多いもののみあげます。
3. 介護で困っていること ●日常の見守り (21名) 4. 気づいた症状 ●何度も同じことを尋ねる (27名)
5. 服薬時の負担 ●ときどき感じる (14名) 6. 服薬の時間 ●3分以内 (12名)
7. 服薬の確認 ●毎回している (25名) 8. 確認の方法 ●飲み終わるまでそばで見ている (22名)
9. 服薬で困っていること ●飲み忘れがあること (13名) 10. 治療薬について ●アレプト以外の薬はあまり知らなかった (17名)
11. 貼り薬について ●貼り薬があるのを知らなかった (20名) 12. 服薬形態の希望 ●飲み薬 (1日1回) (22名)
13. 日常生活動作の障害の進行を抑えたら介護負担の軽減になる ●とてもそう思う (19名) 以上です。

2010 年度に「在宅において認知症高齢者の介護及び死別体験」をしたご家族に対して行ったアンケート結果の一部をご報告します。アンケートの結果では、介護家族の抱える「ストレス」「辛い」などのネガティブな問題が明らかになりましたが、一方では、「サービスの恩恵」「感謝」「決意」のようなポジティブな面も分かりました。

#### ◆回答者

回答者は認知症の介護と死別体験をした家族 38 名でした。男性は 5 名、母親の介護が 3 名（60%）いました。女性は 33 名、義母が 17 名（51.5%）と最多でした。病名では、脳血管性認知症が 14 名で最多の結果がでました。介護期間は、男性が平均 11 年 1 ヶ月、女性が平均 6 年 3 ヶ月でした。

#### ◆介護における心理

アンケートでは、各項目に当てはまるかどうか 1~5 の 5 段階で質問をしました。その結果、介護体験では、「サービスの恩恵」が 4.14 と最も高く出ました。これは、介護において訪問介護や看護、デイサービスやショートステイなどの利用が介護負担の軽減につながったことを示していると言えます。しかし、「ストレス」「辛い」「悲しい」などのネガティブな心理面もやや高く表れ、介護家族への心理面へのサポートが重要な課題であることが明らかになりました。

#### ◆生活の変化

アンケートの結果から、「仕事・自由の喪失」というのがやや高く出ました。これは、在宅で介護を行う場合は、家族がどうしても仕事や社会的活動などを減らすか辞めざるを得ないことを示しています。さらに、それにより自分の自由な時間や地域・社会との繋がりも失っていくという状況がうかがえました。

#### ◆家族の望み

死別体験のアンケートでは、「支援への願い」が 3.95 と一番高く出ました。この結果からは、認知症の介護をしている家族に対する支援が最も重要であることが明らかになりました。これは、認知症の介護体験がそれ程辛く重いものであったことを示しているとも言えます。介護と死別の体験をした家族だからこそ、より良い支援への望みが強く出た結果と思われる。

#### ◆これからの家族支援

「サービスの恩恵」「支援への願い」が高いというアンケート結果から、さらなるサービスの充実が望まれていると言えます。在宅における介護は、家庭という閉鎖的な場所で行われています。認知症の人と家族介護者の二者関係に福祉サービスを利用して第三者を入れることは、関係性を広げ、開かれた柔軟なケアを可能にします。しかし、時にはそれだけでは補えないこともあります。アンケートの結果で、「相談相手の存在」というのもやや高くあがりました。これは、友人や近隣の人々の支え、「介護家族の会」等の交流を通して“思いを吐き出す”時や場も大切であることを示しています。

以上のようなアンケートの結果から、「認知症介護家族の会」はそのような役割をもって、家族支援をすすめていくことに存在の意義があると改めて思いました。



## これからの活動について

【第2回認知症介護教室】のお知らせです。認知症介護教室は、今後も続けてまいりますので引き続きご参加くださいますようお願いいたします。

### 第2回認知症介護教室

2012年6月10日(日) 受付 13:00  
○第1部 講演会 13:30~14:15

テーマ: 見方を変えてみよう! 認知症の人の行動—NDBモデルの紹介—

NPO法人認知症介護家族の会うさぎ 理事長 諸岡 明美



○第2部 認知症カフェ 14:15~15:45

開催場所 あずま生涯学習センター 研修室1・2

稲敷市佐原組新田1596 ☎ 0299-79-0053

参加費 NPO協会員 無料

一般参加者 500円 ★事前の申し込みは不要。どなたでもご参加いただけます

#### うさぎ文庫

「こんな夜更けにバナナかよ」

筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち

北海道新聞社

☆介護を受ける人の気持ちに

気づかされる一冊です。

これからも  
お願いいたします!  
.....  
編集委員一同  
宜しく

#### 介護保険法の改正ポイント

平成24年4月からの法改正の内容

- ① 医療と介護の連携強化等
- ② 高齢者の住まいの整備や施設サービスの充実
- ③ 認知症対策
- ④ 保険者が果たすべき役割の強化
- ⑤ 介護人材の確保とサービスの質の向上
- ⑥ 介護保険料の急激な上昇の緩和

おはよう21☆2012年4月号増刊より抜粋



NPO法人認知症介護家族の会うさぎ

理事長 諸岡明美

〒300-0617 茨城県稲敷市福田1597

TEL 0299-77-9173 Fax 0299-77-9174